平成２８年度　認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成２９年５月

鹿児島市（鹿児島県）

○計画期間：平成25年4月～平成30年3月（5年）

Ⅰ．中心市街地全体に係る評価

1．平成 28 年度終了時点（平成 29 年 3 月 31 日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成２５年３月に国の認定を受けた第２期基本計画に基づき、「街なかのにぎわい創出と回遊性の向上」「都市型観光の振興」「商業・業務機能の集積促進」を目標に、各種取組を推進しているところである。

２８年度における本市中心市街地を取り巻く景況について、日銀鹿児島支店によると「本県の景気は緩やかに回復しつつある。」とし、鹿児島財務事務所においても本県の経済情勢は「緩やかに持ち直している。雇用情勢は改善している。」としている。

中心市街地の商業者に今年度のにぎわいの状況を尋ねたところ、いづろ・天文館地区は、外国人観光客の増加等によるプラスの影響が一部あったものの、中心市街地外の大型商業施設の影響等もあり、改善には繋がっていないとの意見が多く、鹿児島中央駅地区は、大型商業施設によるにぎわい創出効果が継続していることなどから、一定のにぎわいが保たれているとの意見が多かった。

また、中心市街地の来街者を対象に実施した回遊性・満足度調査によると、総じて、外国人や若者が増えた、街並み・景観がきれいになった、にぎやかになってきているなどの意見が多かった。

このような状況の中、２８年度は主に次のような事業に取り組んだ。

いづろ・天文館地区においては、「千日町１・４番街区市街地再開発事業」が市の都市計画決定を受けるなど、着実に事業が進捗するとともに、「鹿児島銀行新本店ビル建設事業」では、新本店ビルの建築に先駆けて立体駐車場が完成したほか、本館・泉別館の解体に着手した。

鹿児島中央駅地区においては、「中央町 19・20 番街区市街地再開発事業」で事業計画が策定され、市街地再開発組合が設立されるなど着実に事業が進捗した。

上町・ウォーターフロント地区においては、「鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業（公園・地域生活基盤施設）」で整備を進めてきた「かんまちあ」（上町ふれあい広場、上町の杜公園）が１０月に供用開始し、市民や観光客の憩いの場となっている。

このようなことから、第２期基本計画に掲載された各事業については概ね計画どおり進捗し、にぎわいを取り戻しつつある様子がうかがえるものの、歩行者通行量は昨年度を下回るなど、中心市街地を取り巻く環境は依然厳しい状況にあると考えられる。

今後は、中心市街地の活性化を牽引している鹿児島中央駅地区のにぎわいが中心市街地全体に波及するよう、各地区における事業を着実に推進するとともに、３０年の明治維新 150 周年や大河ドラマ「西郷どん」放送に向けた新たな事業についても、官民一体となって取り組んでまいりたい。

２. 平成 28 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

平成２８年度は第２期基本計画の４年目である。基本計画掲載の各事業は、一部で事業内容や期間など若干の変更があったものの、計画の進捗については概ね計画どおり実施されている。

中心市街地の活性化目標指標のうち、「中心市街地の年間入込観光客数」は目標達成を見込み、「歩行者通行量」「第三次産業の従業者数」については目標値を下回る。

計画策定時に期待されたにぎわいに至っていない現状にある。現在の想定事業だけでは、継続的な活性化の推進力に不足していると思料される。

地区別の取組状況をみると、鹿児島中央駅地区の歩行者通行量は３年ぶりにわずかに減少したものの、平成２６年度の駅周辺の商業施設の増床・リニューアル等の再開発を背景に、中心市街地３地区の中では最もにぎわいをみせた。

いづろ・天文館地区は、中長期的なにぎわい創出の拠点として期待される「千日町１・４番街区市街地再開発事業」「鹿児島銀行新本店ビル建設事業」等の整備事業は緒に就いた段階である。行政・商店街が主体となったイベント等のソフト事業を積極的に展開し活性化に取り組んだものの、歩行者通行量は依然漸減傾向にあり、商業等の盛り上がりに引き続き課題がある。

上町・ウォーターフロント地区においては、新たな市民・観光客の憩いの場として「かんまちあ」が１０月に供用され、鹿児島駅周辺の再整備が進んだが、それ以外に活性化の核となりうる事業が乏しく地区全体としてのにぎわいの基礎が依然不足している。

平成２９年度は第２期基本計画の最終年であることから、既存プロジェクトの着実な推進に加え、民間と行政がより密接に連携・協力し、目標達成に向けて計画の改善や修正を行うことに加え、次を狙う構想の策定等が必要である。

なお、鹿児島市が平成２９年度末の国の認定を目指している新しい基本計画の策定に当たっては、その策定過程において、十分に本協議会や商業者及び地元住民等との協議・調整を行い、官民一体となった実効性があり、中心市街地の活性化に資する中長期的な構想や計画の策定に取り組むことを確認頂きたい。

Ⅱ．目標毎のフォローアップ結果

1．目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
街なかのにぎわい創出と回遊性の向上	歩行者通行量(30 地点、土日)（人/日）	165,664 (H24)	171,000 (H29)	158,363 (H28)	②	②
都市型観光の振興	中心市街地の年間入込観光客数（人）	7,762,000 (H23)	8,100,000 (H29)	7,880,000 (H27)	①	①
商業・業務機能の集積促進	第三次産業の従業者数（人）	62,939 (H21)	64,000 (H29)	60,565 (H26)	②	29 年度フォローアップ予定

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2．目標達成見通しの理由

(1) 歩行者通行量

平成２８年の歩行者通行量は 158,363 人と､基準値である２４年より 7,301 人(約 4.4%）減少、昨年より 2,774 人（約 1.7%）減少した。２４年の基準値を引き続き下回り、２９年の目標値まであと約１万３千人という状況である。

これまで実施してきた各種イベントや外国人観光客の誘客強化等の取組による効果の一方で、中心市街地外の大型商業施設による影響等が長く続いていることや国内からの観光客が減少していること等が要因として考えられる。

地区別の傾向として、いづろ・天文館地区は、基準年の２４年から４年連続の減少となった。昨年比では 0.5%減と微減ながら、中活計画に調査結果が掲載されている１０年以降で最も低い数字となり、さらに厳しさが増している。

鹿児島中央駅地区は３年ぶりに減少したものの、この１０年で最も高い数字であった２７年に次ぐ結果であった。これは、同地区におけるこれまでの中心市街地活性化の取組により底上げが図られた結果、調査日における降雨の影響を受けつつも高水準で推移したものと思われる。

目標達成までの約１万３千人の増については、３０年の明治維新 150 周年や大河ドラマ「西郷どん」放送に向けた事業展開による効果が期待できるものの、計画最終年度の２９年度における目標達成は厳しい状況にある。

(2) 中心市街地の年間入込観光客数

平成２７年の中心市街地の年間入込観光客数は 788 万人と、前年に比べ２万人増（0.3%増）、２３年の基準値に比べ 11 万８千人増（1.5%増）であった。

２７年８月には天文館六月灯ゆかた祭り（観光イベント創出支援事業）、９月には第１回錦江湾潮風フェスタ、１２月から２８年１月にかけては天文館ミリオネーション 2016、２８年３月には鹿児島マラソンがそれぞれ初開催され、多くの人出でにぎわったことや、年間を通じて行われる多彩なイベントの開催などによるにぎわい創出効果などにより、年間入込観光客数は３年連続で増加したと考えられる。

また、２７年の市全体の観光動向として、九州新幹線全線開業効果が維持されていることや、上海線・香港線の増便、クルーズ船の寄港回数の増加などにより、入込観光客数は増加しており、このことも中心市街地にプラスの影響を与えている。

続く２８年度の動向としては、４月に発生した熊本地震によるマイナスの影響がしばらく続いたものの、７月以降は九州新幹線の運行が地震前の通常本数に戻ったことや、九州ふっこう割による効果もあり、鹿児島地区の宿泊客数は回復傾向にある。

２９年度は、天文館ミリオネーション、鹿児島マラソンといった大型イベントの開催や外国人観光客の受入対策等にも引き続き取り組むこと、また、３０年の明治維新 150 周年や大河ドラマ「西郷どん」放送に向けた事業展開も予定していることから、中心市街地の年間入込観光客数の目標達成は可能であると見込んでいる。

(3) 第三次産業の従業者数

２８年度は、「都市型産業振興事業」で立地協定を締結した企業の操業開始により、新たな雇用が創出された。

構造的な労働力不足の懸念はあるものの、第三次産業従業者数の増加に向けて、引き続き「都市型産業振興事業」による積極的な企業誘致活動に努めるほか、中央町 19・20 番街区及び千日町１・４番街区の市街地再開発事業や鹿児島銀行新本店ビル建設事業等の大型事業が着実に推進できるよう、官民一体となって取り組んでまいりたい。

３．前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

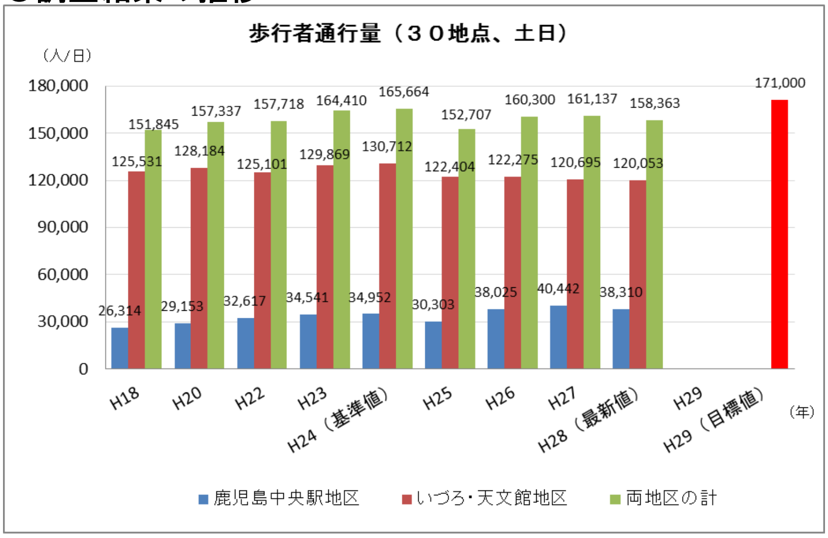
前回フォローアップから変更はない。

（※「第三次産業の従業者数」の目標達成見通しについては、29 年度定期フォローアップにて検証を行う。）

４． 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者通行量」※目標設定の考え方は、基本計画 P58～P62 参照

●調査結果の推移



年	（単位：人/日）
H24	165,664 （基準年値）
H25	152,707
H26	160,300
H27	161,137
H28	158,363
H29	171,000 （目標値）

※調査方法：歩行者通行量調査（毎年度 10 月実施）

※調 査 月：平成 28 年 10 月

※調査主体：鹿児島市

※調査対象：土・日曜日 30 地点の歩行者及び自転車等の軽車両通行者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中央町 19・20 番街区市街地再開発事業（中央町 19・20 番街区市街地再開発組合）

事業完了時期	平成 32 年度【実施中】
事業概要	鹿児島中央駅の駅前という立地条件を生かし、中央町 19・20 番街区を一体的に活用して、商業・業務・公益施設、共同住宅、駐車場を備えた再開発ビルを整備。
事業効果又は進捗状況	28 年度は事業計画を策定し、市街地再開発組合が設立されるなど、市街地再開発事業の取組を着実に進めた。 目標設定時に見込んだ事業効果：1,634 人/日

②. 中央町１番街区等商業活性化事業（アミュプラザ鹿児島の増床など）（九州旅客鉄道株式会社）

事業完了時期	平成 26 年度【済】
事業概要	鹿児島中央駅の駅ビルという立地を生かし、中心市街地内の核店舗の一つとして大きな集客機能を有するアミュプラザ鹿児島において、商業施設及び立体駐車場を増築。
事業効果又は進捗状況	28 年度のアミュプラザ鹿児島の営業実績は、４月の熊本震災による影響が一時あったものの、売上高、入館者数ともに前年を上回る過去最高を記録し、引き続き街なかのにぎわい創出に寄与している。 目標設定時に見込んだ事業効果：1,232 人/日

	事業完了による効果：約 2,000 人/日

③. **東千石町１２番街区整備事業（岩崎産業株式会社、財団法人岩崎育英文化財団）**

事業完了時期	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	いづろ・天文館地区において、電車通りに接する立地を生かして、小売・飲食の商業機能と郷土出身の偉人や画家の書画を展示する美術館や多目的広場を併設する複合施設を整備。
事業効果又は進捗状況	28 年度も引き続き街区内の関係権利者と土地利用について協議を行ったほか、施設整備計画の内容を充実させる事を目的として街区内の土地の一部を買収した。 目標設定時に見込んだ事業効果：1,606 人/日

④. **鹿児島市立美術館施設整備事業（鹿児島市）**

事業完了時期	平成 28 年度【済】
事業概要	市立美術館の建物・機械・電気機器等の機能更新を行うとともに、ミュージアムショップや前庭を活用したオープンカフェ等を設置。
事業効果又は進捗状況	28 年度は喫茶室等の改修工事が完了し、29 年３月にオープンカフェとミュージアムショップがオープンした。 目標設定時に見込んだ事業効果：72 人/日 事業完了による効果：－

⑤. **天文館シネマパラダイスと周辺商店街との連携（株式会社天文館、周辺商店街）**

事業完了時期	平成 24 年度～【実施中】
事業概要	商店街等と映画館の相互協力により、いづろ・天文館地区への来街者に対して、映画鑑賞チケットの半券を活用した「半券バリュー」などのサービスを提供するほか、毎月 10 日のテンパラデーにあわせ、周辺商店街において、映画観賞者の駐車場料金無料の時間延長や各種イベント等を連携して実施。
事業効果又は進捗状況	28 年度の映画館の年間利用者数は約 17 万２千人と前年度比約 14.2%増となった。商店街の 80 店と引き続き連携し、各店で商品の割引やソフトドリンクの無料追加等の取組を実施するなど、にぎわいづくりに努めている。なお、地下道で繋がり、映画館と提携している駐車場セラ６０２の直近の利用台数は、前年度比約 4.5%増の約 37 万台（27 年度）であった。 目標設定時に見込んだ事業効果：1,480 人/日 事業による効果：約 940 人/日

⑥. 街なか空き店舗活用事業（鹿児島市）

事業完了時期	平成 27 年度【実施中】
事業概要	商店街等が空き店舗を活用してテナントミックスやチャレンジショップを行い、新たな魅力を有する店舗を出店させる取組に対して、家賃補助等の助成を行う。
事業効果又は進捗状況	28 年度は、27 年度から継続分の計５店舗に借上経費を助成した。 目標設定時に見込んだ事業効果：104 人/日 事業による効果：約 100 人/日

⑦. 鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業（公園・地域生活基盤施設）

事業完了時期	平成 28 年度【済】
事業概要	鹿児島駅周辺の低未利用地である旧国鉄用地（浜町１番５）に公園、広場、駐車場を整備。
事業効果又は進捗状況	28 年 10 月に「かんまちあ」（上町ふれあい広場、上町の杜公園）として供用開始。人々のふれあい及び交流を促進し、地域のにぎわいを創出するため、屋根付きイベント広場や芝生広場、遊具などを設置。各種イベント等で活用されているほか、市民・観光客の憩いの場として親しまれている。 目標設定時に見込んだ事業効果：－ 事業完了による効果：約 70 人/日

⑧. 【追加】千日町１・４番街区市街地再開発事業（千日町１・４番街区市街地再開発準備組合）

事業完了時期	平成 33 年度【実施中】
事業概要	いづろ・天文館地区の千日町１・４番街区において、電車通りに面し、バス停留所やアーケード入口に隣接する立地性を生かし、物販・飲食店舗、ホテル、オフィス等を備えた再開発ビルを整備。
事業効果又は進捗状況	28 年度は、市の都市計画決定を受け、事業計画案を作成するなど、市街地再開発事業の取組を着実に進めた。 目標設定時に見込んだ事業効果：－

⑨. 【追加】市立病院跡地緑地整備事業（鹿児島市）

事業完了時期	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	市立病院移転後の跡地（旧本館等跡地）において、近接する甲突川左岸緑地との連続性を生み出し、中心市街地の回遊性の向

	上に資する新たな潤いの拠点となる緑地を整備。
事業効果又は進捗状況	28 年度は、緑地の整備に向けて、基本計画（素案）の作成や測量等に取り組んだ。 目標設定時に見込んだ事業効果：－

⑩.【追加】鶴丸城楼門建設事業（鶴丸城御楼門建設協議会、鹿児島県）

事業完了時期	平成 31 年度【実施中】
事業概要	明治６年（1873 年）に焼失した鶴丸城本丸の大手門である御楼門や、楼門と連なり城郭を構成する重要な要素である御角櫓を建設し、歴史、文化、建築技術の継承とともに新たな観光拠点とする事業。
事業効果又は進捗状況	28 年度は、御楼門建設に係る実施設計や建設に必要な大径木の確保、御角櫓の基本設計等に取り組んだ。 目標設定時に見込んだ事業効果：－

⑪.【追加】鹿児島銀行新本店ビル建設事業（㈱鹿児島銀行）

事業完了時期	平成 31 年度【実施中】
事業概要	鹿児島銀行本店ビルを建替え、市内に分散している業務機能等を集約し金融サービスの一層の充実を図るとともに、同ビル内に商業施設を整備。
事業効果又は進捗状況	28 年度は、新本店ビルの建設に先駆けて立体駐車場が完成したほか、本館と泉町別館の解体に着手した。 目標設定時に見込んだ事業効果：－

⑫.【追加】コミュニティサイクル運営事業（鹿児島市）

事業完了時期	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	複数のサイクルポート（自転車貸出拠点）を配置し、どのサイクルポートでも貸出・返却ができるコミュニティサイクルを実施
事業効果又は進捗状況	コミュニティサイクル「かごりん」は、28 年度の市民や観光客による利用が約 13 万８千回に達するなど、中心市街地内の回遊性向上が図られている。 目標設定時に見込んだ事業効果：－ 事業完了による効果：約 80 人/日

●目標達成の見通し及び今後の対策

平成２８年の歩行者通行量は 158,363 人と、基準値である２４年より 7,301 人（約 4.4%）減少、昨年より 2,774 人（約 1.7%）減少した。２４年の基準値を引き続き下回り、２９年の目標値まであと約１万３千人という状況である。

これまで実施してきた各種イベントや外国人観光客の誘客強化等の取組による効果の一方で、中心市街地外の大型商業施設による影響等が長く続いていることや国内からの観光客が減少していること等が要因として考えられる。

地区別の傾向として、いづろ・天文館地区は、基準年の２４年から４年連続の減少となった。昨年比では 0.5%減と微減ながら、中活計画に調査結果が掲載されている１０年以降で最も低い数字となり、さらに厳しさが増している。

鹿児島中央駅地区は３年ぶりに減少したものの、この１０年で最も高い数字であった２７年に次ぐ結果であった。これは、同地区におけるこれまでの中心市街地活性化の取組により底上げが図られた結果、調査日における降雨の影響を受けつつも高水準で推移したものと思われる。

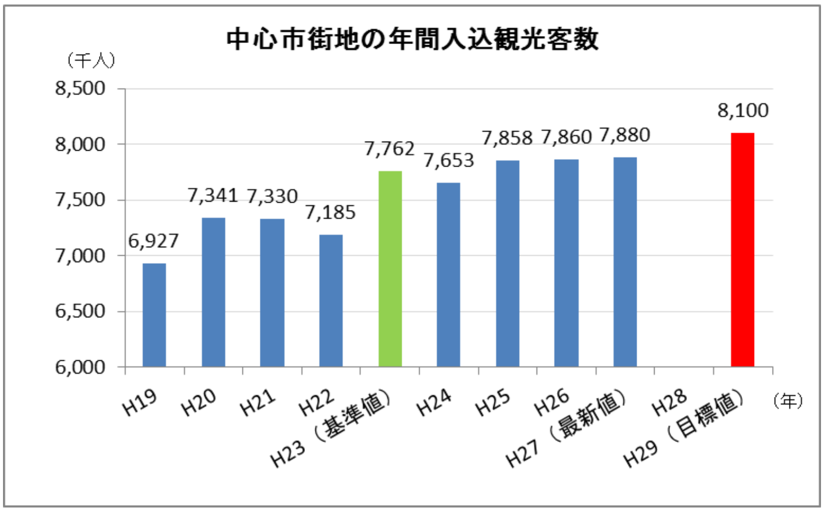
目標達成までの約１万３千人の増については、３０年の明治維新 150 周年や大河ドラマ「西郷どん」放送に向けた事業展開による効果が期待できるものの、計画最終年度の２９年度における目標達成は厳しい状況にある。

今後は、歩行者通行量の増加に向け、中央町 19・20 番街区及び千日町１・４番街区の市街地再開発事業や、鶴丸城楼門建設事業、鹿児島銀行新本店ビル建設事業等の大型事業が着実に推進できるよう、引き続き官民一体となって取り組んでまいりたい。

４．目標指標毎のフォローアップ結果

「中心市街地の年間入込観光客数」※目標設定の考え方は、基本計画 P63～P66 参照

●調査結果の推移



年	（単位：人）
H23	7,762,000 （基準年値）
H24	7,653,000
H25	7,858,000
H26	7,860,000
H27	7,880,000
H28	（29 年度フォローアップ）
H29	8,100,000 （目標値）

※調査方法：鹿児島市観光統計を基に中心市街地分を算出

※調　査　月：前年１月～12 月分

※調査主体：鹿児島市

※調査対象：鉄道、バス、自家用車、船舶等の各種交通機関を利用した観光客

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①．中央町 19・20 番街区市街地再開発事業（中央町 19・20 番街区市街地再開発組合）

【再掲】Ｐ５

事業完了時期	平成 32 年度【実施中】
事業概要	鹿児島中央駅の駅前という立地条件を生かし、中央町 19・20 番街区を一体的に活用して、商業・業務・公益施設、共同住宅、駐車場を備えた再開発ビルを整備。
事業効果又は進捗状況	28 年度は事業計画を策定し、市街地再開発組合が設立されるなど、市街地再開発事業の取組を着実に進めた。 目標設定時に見込んだ事業効果：6.5 万人

②．中央町１番街区等商業活性化事業（アミュプラザ鹿児島の増床など）（九州旅客鉄道株式会社）

【再掲】Ｐ５

事業完了時期	平成 26 年度【済】
事業概要	鹿児島中央駅の駅ビルという立地を生かし、中心市街地内の核店舗の一つとして大きな集客機能を有するアミュプラザ鹿児島において、商業施設及び立体駐車場を増築。
事業効果又は進捗状況	28 年度のアミュプラザ鹿児島の営業実績は、４月の熊本震災による影響が一時あったものの、売上高、入館者数ともに前年を上回る過去最高を記録し、引き続き街なかのにぎわい創出に寄与している。

	目標設定時に見込んだ事業効果：24.3 万人 事業完了による効果：41.1 万人

③. 東千石町１２番街区整備事業（岩崎産業株式会社、財団法人岩崎育英文化財団）

【再掲】Ｐ６

事業完了時期	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	いづろ・天文館地区において、電車通りに接する立地を生かして、小売・飲食の商業機能と郷土出身の偉人や画家の書画を展示する美術館や多目的広場を併設する複合施設を整備。
事業効果又は進捗状況	28 年度も引き続き街区内の関係権利者と土地利用について協議を行ったほか、施設整備計画の内容を充実させる事を目的として街区内の土地の一部を買収した。 目標設定時に見込んだ事業効果：14.3 万人

④. 鹿児島市立美術館施設整備事業（鹿児島市）

【再掲】Ｐ６

事業完了時期	平成 28 年度【実施中】
事業概要	市立美術館の建物・機械・電気機器等の機能更新を行うとともに、ミュージアムショップや前庭を活用したオープンカフェ等を設置。
事業効果又は進捗状況	28 年度は喫茶室等の改修工事が完了し、29 年３月にオープンカフェとミュージアムショップがオープンした。 目標設定時に見込んだ事業効果：0.3 万人 事業完了による効果：－

⑤. 【追加】千日町１・４番街区市街地再開発事業（千日町１・４番街区市街地再開発準備組合）

【再掲】Ｐ７

事業完了時期	平成 33 年度【実施中】
事業概要	いづろ・天文館地区の千日町１・４番街区において、電車通りに面し、バス停留所やアーケード入口に隣接する立地性を生かし、物販・飲食店舗、ホテル、オフィス等を備えた再開発ビルを整備。
事業効果又は進捗状況	28 年度は、市の都市計画決定を受け、事業計画案を作成するなど、市街地再開発事業の取組を着実に進めた。 目標設定時に見込んだ事業効果：－

⑥.【追加】薩摩維新ふるさと博開催事業（薩摩維新ふるさと博実行委員会）

事業完了時期	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	幕末・維新期の薩摩を感じられるイベントの実施
事業効果又は進捗状況	幕末・維新期の衣装に身を包んだキャストによるおもてなしやお芝居等が行われた会場には、28 年 10 月～11 月の 15 日間で約７万７千人が来場し、街なかのにぎわい創出に寄与した。 目標設定時に見込んだ事業効果：－ 事業による効果：1.1 万人

⑦.【追加】錦江湾潮風フェスタ開催事業（錦江湾潮風フェスタ実行委員会）

事業完了時期	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	錦江湾の魅力を活用したイベントの開催
事業効果又は進捗状況	28 年度は台風 12 号接近の影響により、開催中止となった。 目標設定時に見込んだ事業効果：－ 事業による効果：－

⑧.【追加】天文館ミリオネーション開催事業（天文館ミリオネーション実行委員会）

事業完了時期	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地で新たに冬の季節に大規模なイルミネーションで光の空間を創り出すイベントを開催。
事業効果又は進捗状況	28 年 12 月から 29 年１月にかけての 40 日間で約 18 万５千人が来場するなど、街なかのにぎわい創出に寄与した。 目標設定時に見込んだ事業効果：－ 事業による効果：2.7 万人

⑨.【追加】鹿児島マラソン開催事業（鹿児島マラソン実行委員会）

事業完了時期	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	史跡や景観など本市の魅力を体感できる「鹿児島マラソン」を開催。
事業効果又は進捗状況	29 年３月に「鹿児島マラソン 2017」を開催。大会当日は約１万２千人のランナーが中心市街地をスタートし、本市の史跡や景観などの魅力を体感できるコースを疾走した。雨天に見舞われたものの、沿道の観覧者やスタッフ・ボランティアを含めて約 12 万６千人が参加して大会を盛り上げるなど、街なかのにぎわい創出に寄与した。

	目標設定時に見込んだ事業効果：－ 事業による効果：2.0 万人

⑩.【追加】鶴丸城楼門建設事業（鶴丸城御楼門建設協議会、鹿児島県）
【再掲】Ｐ８

事業完了時期	平成 31 年度【実施中】
事業概要	明治６年（1873 年）に焼失した鶴丸城本丸の大手門である御楼門や、楼門と連なり城郭を構成する重要な要素である御角櫓を建設し、歴史、文化、建築技術の継承とともに新たな観光拠点とする事業。
事業効果又は進捗状況	28 年度は、御楼門建設に係る実施設計や建設に必要な大径木の確保、御角櫓の基本設計等に取り組んだ。 目標設定時に見込んだ事業効果：－

●目標達成の見通し及び今後の対策

平成２７年の中心市街地の年間入込観光客数は 788 万人と、前年に比べ２万人増（0.3％増）、２３年の基準値に比べ 11 万８千人増（1.5％増）であった。

２７年８月には天文館六月灯ゆかた祭り（観光イベント創出支援事業）、９月には第１回錦江湾潮風フェスタ、１２月から２８年１月にかけては天文館ミリオネーション 2016、２８年３月には鹿児島マラソンがそれぞれ初開催され、多くの人出でにぎわったことや、年間を通じて行われる多彩なイベントの開催などによるにぎわい創出効果などにより、年間入込観光客数は３年連続で増加したと考えられる。

また、２７年の市全体の観光動向として、九州新幹線全線開業効果が維持されていることや、上海線・香港線の増便、クルーズ船の寄港回数の増加などにより、入込観光客数は増加しており、このことも中心市街地にプラスの影響を与えている。

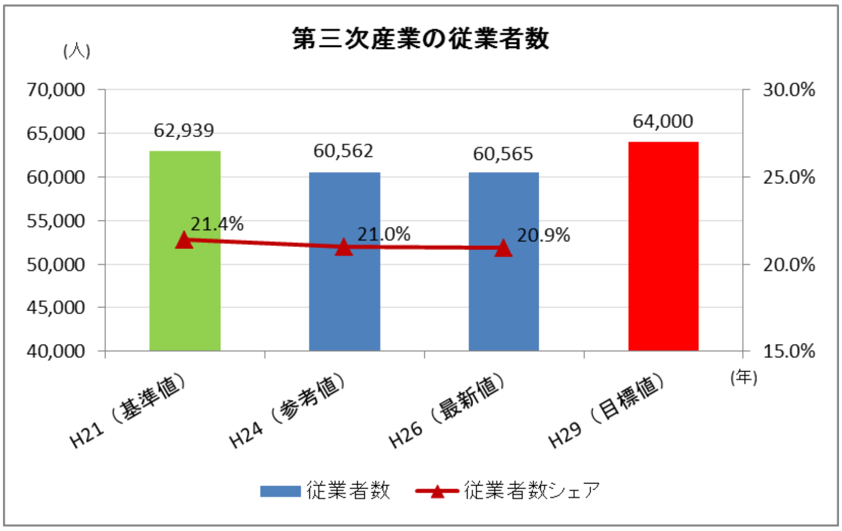
続く２８年度の動向としては、４月に発生した熊本地震によるマイナスの影響がしばらく続いたものの、７月以降は九州新幹線の運行が地震前の通常本数に戻ったことや、九州ふっこう割による効果もあり、鹿児島地区の宿泊客数は回復傾向にある。

２９年度は、天文館ミリオネーション、鹿児島マラソンといった大型イベントの開催や外国人観光客の受入対策等にも引き続き取り組むこと、また、３０年の明治維新 150 周年や大河ドラマ「西郷どん」放送に向けた事業展開も予定していることから、中心市街地の年間入込観光客数の目標達成は可能であると見込んでいる。

４．目標指標毎のフォローアップ結果

「第三次産業の従業者数」※目標設定の考え方は、基本計画 P67～P69 参照

●調査結果の推移



年	（単位：人）
H21	62,939 （基準年値）
H24	60,562 （参考値）
H26	60,565
H29	64,000 （目標値）

※調査方法：経済センサス基礎調査

※調 査 月：平成 26 年 7 月

※調査主体：総務省統計局

※調査対象：中心市街地における第三次産業の従業者数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中央町 19・20 番街区市街地再開発事業（中央町 19・20 番街区市街地再開発組合）

【再掲】Ｐ５

事業完了時期	平成 32 年度【実施中】
事業概要	鹿児島中央駅の駅前という立地条件を生かし、中央町 19・20 番街区を一体的に活用して、商業・業務・公益施設、共同住宅、駐車場を備えた再開発ビルを整備。
事業効果又は進捗状況	28 年度は事業計画を策定し、市街地再開発組合が設立されるなど、市街地再開発事業の取組を着実に進めた。 目標設定時に見込んだ事業効果：203 人

②. 中央町１番街区等商業活性化事業（アミュプラザ鹿児島の増床など）（九州旅客鉄道株式会社）

【再掲】Ｐ５

事業完了時期	平成 26 年度【済】
事業概要	鹿児島中央駅の駅ビルという立地を生かし、中心市街地内の核店舗の一つとして大きな集客機能を有するアミュプラザ鹿児島において、商業施設及び立体駐車場を増築。
事業効果又は進捗状況	28 年度のアミュプラザ鹿児島の営業実績は、４月の熊本震災による影響が一時あったものの、売上高、入館者数ともに前年を上回る過去最高を記録し、引き続き街なかのにぎわい創出に寄

	与している。 目標設定時に見込んだ事業効果：264 人 事業完了による効果：約 300 人

③. **東千石町１２番街区整備事業（岩崎産業株式会社、財団法人岩崎育英文化財団）**
【再掲】Ｐ６

事業完了時期	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	いづろ・天文館地区において、電車通りに接する立地を生かして、小売・飲食の商業機能と郷土出身の偉人や画家の書画を展示する美術館や多目的広場を併設する複合施設を整備。
事業効果又は進捗状況	28 年度も引き続き街区内の関係権利者と土地利用について協議を行ったほか、施設整備計画の内容を充実させる事を目的として街区内の土地の一部を買収した。 目標設定時に見込んだ事業効果：115 人

④. **街なか空き店舗活用事業（鹿児島市）**
【再掲】Ｐ７

事業完了時期	平成 27 年度【実施中】
事業概要	商店街等が空き店舗を活用してテナントミックスやチャレンジショップを行い、新たな魅力を有する店舗を出店させる取組に対して、家賃補助等の助成を行う。
事業効果又は進捗状況	28 年度は､27 年度から継続分の計５店舗に借上経費を助成した。 目標設定時に見込んだ事業効果：79 人 事業による効果：約 50 人

⑤. **【追加】千日町１・４番街区市街地再開発事業（千日町１・４番街区市街地再開発準備組合）**
【再掲】Ｐ７

事業完了時期	平成 33 年度【実施中】
事業概要	いづろ・天文館地区の千日町１・４番街区において、電車通りに面し、バス停留所やアーケード入口に隣接する立地性を生かし、物販・飲食店舗、ホテル、オフィス等を備えた再開発ビルを整備。
事業効果又は進捗状況	28 年度は、市の都市計画決定を受け、事業計画案を作成するなど、市街地再開発事業の取組を着実に進めた。 目標設定時に見込んだ事業効果：－

⑥. 都市型産業振興事業（鹿児島市）

事業完了時期	平成 11 年度～【実施中】
事業概要	ソフトプラザかごしまを活用した情報関連産業の育成・支援を行うとともに、本市の都市機能の集積を生かした企業立地の推進に取り組む。
事業効果又は進捗状況	28 年度は中心市街地内に立地する７社と協定を締結（内、ソフトプラザかごしま：２社）。27 年度に協定締結済みの企業を含めた６社が 28 年度に操業開始し、また、第２期計画が開始した 25 年度以降に協定を締結したその他の企業の 28 年度の取組もあり、約 200 人の雇用が創出された。 目標設定時に見込んだ事業効果：－ 事業による効果：約 1,100 人

⑦. 【追加】鹿児島銀行新本店ビル建設事業（㈱鹿児島銀行）

【再掲】Ｐ８

事業完了時期	平成 31 年度【実施中】
事業概要	鹿児島銀行本店ビルを建替え、市内に分散している業務機能等を集約し金融サービスの一層の充実を図るとともに、同ビル内に商業施設を整備。
事業効果又は進捗状況	28 年度は、新本店ビルの建設に先駆けて立体駐車場が完成したほか、本館と泉町別館の解体に着手した。 目標設定時に見込んだ事業効果：－

●目標達成の見通し及び今後の対策

２８年度は、「都市型産業振興事業」で立地協定を締結した企業の操業開始により、新たな雇用が創出された。

構造的な労働力不足の懸念はあるものの、第三次産業従業者数の増加に向けて、引き続き「都市型産業振興事業」による積極的な企業誘致活動に努めるほか、中央町 19・20 番街区及び千日町１・４番街区の市街地再開発事業や鹿児島銀行新本店ビル建設事業等の大型事業が着実に推進できるよう、官民一体となって取り組んでまいりたい。